

水俣湾は波が立たないし、 砂浜もあるし、藻場もあるし、 魚が産まれる条件がそろうとった。

魚は大きくなっても、そのまま湾におった。 だから、一年中いつ漁に行っても魚が獲れる。

わたしたち漁師は「魚が湧く」と言いよったです。 昔から、ほんと自然豊かな漁場だったよ。



## 海の記憶

この章では、「魚湧く海」「清葉やされていく海」「埋められていく海」の三つの時期に分けて、13 の記憶を集めました。記憶をたどる写真はほとんどありません。あなたの心の中に、風景を思い描いてみてください。

魚湧く海 汚染されていく海 埋められていく海



アワビがざわめく海

<sup>まましま</sup> 大潮の夜になると 何かザワザワと音が聞こえるんだって。

何だろうと思ったら、 明神さんのところから、 アワビが恋路島に向かって 泳いでいってる音だったって。

大潮の時には、 恋路島とくっつきそうなくらい潮が引いてたからね。 恋路島には今でもアワビがたくさんいるらしいから、 それはおとぎ話じゃなく、 ほんとにそれくらいいたんだと思う。

> <sup>ましながり み こ</sup> 吉永理巳子さん 1951 年生まれ



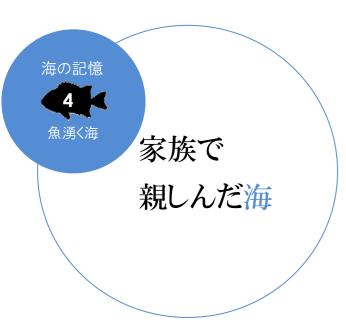
小学 6 年生の頃、毎日潜って、魚獲りに行きよった。 魚が一番のごちそうやったから。

昔は、海藻がすごくたくさん生えていて、魚が豊富におった。 魚が並んで泳ぎよった。 人間が魚に食われるんじゃないかと思うくらい、魚がおった。

岩かげにいる魚を 1 匹狙ってモリで突くと、 2、3 匹が串になって刺さってきよった。 それくらい魚がおった。

ほんと、魚の宝庫だった。 すごかったもんなあ。

> <sup>そうかわやすたか</sup> 寒川康隆さん 1939 年生まれ



海辺の井川 海辺の井川

私は昭和 25 年に、 山の方の集落から明神に嫁に来ました。

ここら一帯、きれいな海だったんですよ。 主人は、よく魚釣りに行きよったんです。 <sup>も</sup> 藻についとる小さかエビを網ですくって、エサにしてました。 魚は、キスゴとかエソとか獲れよったです。

春には、潮が引けば、 ヒトクチダコっていう小さかタコが獲れよりました。 足首がつかるくらいの浅瀬を歩きながら探すんです。 タコの逃げる方向を見て、主人は手でつかまえてました。 私は獲りきらんので、籠を持ってついて歩きよったです。

子どもも一緒に、カキやテングサを、よく採りよりました。

<sup>かねこ</sup> 金子スミ子さん 1931 年生まれ 昔ここが海だった頃、 岩の間から真水が自然に湧いているところがありました。

明神にまだ水道が通ってなかった頃、水は貴重でした。 井戸の水が少ない時は、 海辺の井川の水をもらったりしてました。

井川の水は、山からの栄養をたっぷり含んでいたので、 海の生きものも育んでいたのです。

けれど、私が小学校3年生頃に工事が始まって、 井川は、チッソのカーバイドのかすで埋められてしまいました。

> <sup>ょしなが リ み こ</sup> 吉永理巳子さん 1951 年生まれ

\*\*せん 汚染されていく海





## へドロに浸かって働く

海に落ちた子ども

海の記憶

百間の海の近くに、チップ工場があったったい。 紙ば作る原料たいね。 私はそこで 15 年間働いとった。

チップば作るとに、長か原木ば半分に切って、 大きか機械に入れて、ゴロゴロ回して洗うとたい。

原木を洗う水は、チッソ工場脇の排水溝からポンプでくみ上げよった。 チッソのドボドボした廃水で、原木ば洗いよったったいなあ。

ポンプが詰まった時は、 ドベ(ヘドロ)の溜まったチッソの排水溝に下りて掃除しよった。 深かところは腰までドベが積もっとった。

15年間水銀の廃水に浸かって仕事しよったわけよね。 今考えてみれば、ゾッとすっとたい。

1933 年生まれの女性

百間の海岸のところには、 きれいな丸太杉が山積みにしてあったんです。 そしてそれを、毎日どんどん船積みしてたの。

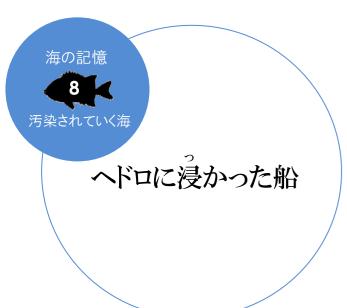
大きな原木が山積みしてあるから、 子どもたちはそれに登って遊んでたんですわ。

大人たちが、 「そこに登ると危ないよ。海に落ちるよ」と言ってたんだけど、 子供たちは楽しいからそれに登って遊ぶんですよ。

そしたら案の定、丸太が転がって、 子どもが一人、海に沈んだんです。

普通の海岸ならぷかっと浮かんでくるけど、ヘドロですがね。 大変でした。子どもは助からんかった。

> <sup>たじりゆきこ</sup> 田尻幸子さん 1931 年生まれ



海の記憶 タ 汚染されていく海 **へドロの海で泳ぐ** 

中学生の頃、図工の授業で、 ひゃっけんこう 百間港にスケッチに来ていました。

潮が引いていて、ヘドロの中に浸かっている船がたくさんあったのを覚えています。

百間の港に漁船を持って来ると、 船の底に付くカキなどの貝が死んでしまうので、 そうじてまりなる手間が省けたそうです。

今にして思えば、 水銀の毒で船底をきれいにしていたわけです。

> <sup>かわもとあいいちろう</sup> 川本愛一郎さん 1958 年生まれ

ひゃっけんはいすいこう
百間排水口の辺りでは、

船が、積もったヘドロに乗り上げるので、竿で押すんです。 でも、その竿が全部、何メートルもズブズブ入っていくんです。

船が動かないから、立ち泳ぎで引っ張りました。 臭いもすごかったし、水が濁っていて、 何も見えませんでした。

> <sup>すぎもとはじめ</sup> 杉本肇さん 1961 年生まれ





## 地層のようだったヘドロ

いよいよ明日からヘドロ工事が始まるという前の日に、 あのヘドロの 4 メートルくらい下は、 どうなっているんだろうと思ったんです。

今日が最後だからちょっと見てみようと、

ひゃっけんはいすいこう
 百間排水口のところを、20人ほどで、

はお

潮が引いた時にどんどん掘っていったんです。

掘っていると水が入ってくる。 それを汲み上げて掘りました。 深さは、人間の身長くらい掘るのがやっとでした。

そうしたら、7 つくらいの層にはっきりと分かれてた。 緑の層とか白の層とか、赤い層とか赤茶けた硬い層とか、 黒い層、薄いピンク色の層もありました。 とても硬くてカチンカチンしているところもありました。

その時のヘドロは甕に入れて、トラックで持ち帰りました。

ゃなぎだこういち 柳田耕一さん 1950 年生まれ



埋め立て工事の時、漁師は順番に、 汚染魚を獲りに行かんばんかった。

命令だった。 3回欠席したら、漁師を辞めんばんかった。

わたしは仕方なく行ったばってん、 うちの家内は 「魚どんが、あまりにもかわいそうだ」と言って、 <sup>ぜったい</sup> 絶対行かんかった。

 すぎもとたけし

 杉本雄さん 1939 年生まれ



## いのちのたくましさ

水銀調査のための魚を獲りに 水俣湾の仕切り網のところに行くと、 たくさん獲れたんです。

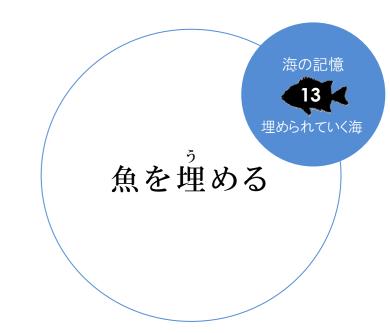
汚染された海にたくさん魚がいるって、不思議ですよね。 汚染魚を一掃するため、あんなに獲ってたのに、 それでもまだたくさんいた。 ほんと、魚が湧くような、豊かな海でした。

仕切り網と言っても、 船が通れるように真ん中は 50 メートルくらい開いてたし、 小魚は網の目を行き来してました。

今思えば、仕切り網は ひとつの巨大な漁礁になってたんじゃないかなあ。 網に藻や海藻がついて、 それに小魚、大きなタチウオやチヌも群れてたんですよね。

魚たちはたくましいですよ。 自然の復元力っていうか、人間の及ぶところではないですよね。

> <sup>なかむらゆうこう</sup> 中村雄幸さん 1950 年生まれ



きゅうませんぎょ 獲った汚染魚は、最初はドラム缶に入れよった。

でも小さくて間に合わんけん、 2トンくらい入る大きなタンクを作って、 魚を入れて、コンクリートでふたをした。

そしてタンクを並べて埋め立てたったいなあ。 タンクがいっぱいになるまでは、 ふたは開けっぱなしやけん、 魚の腐った臭いがひどかった。